

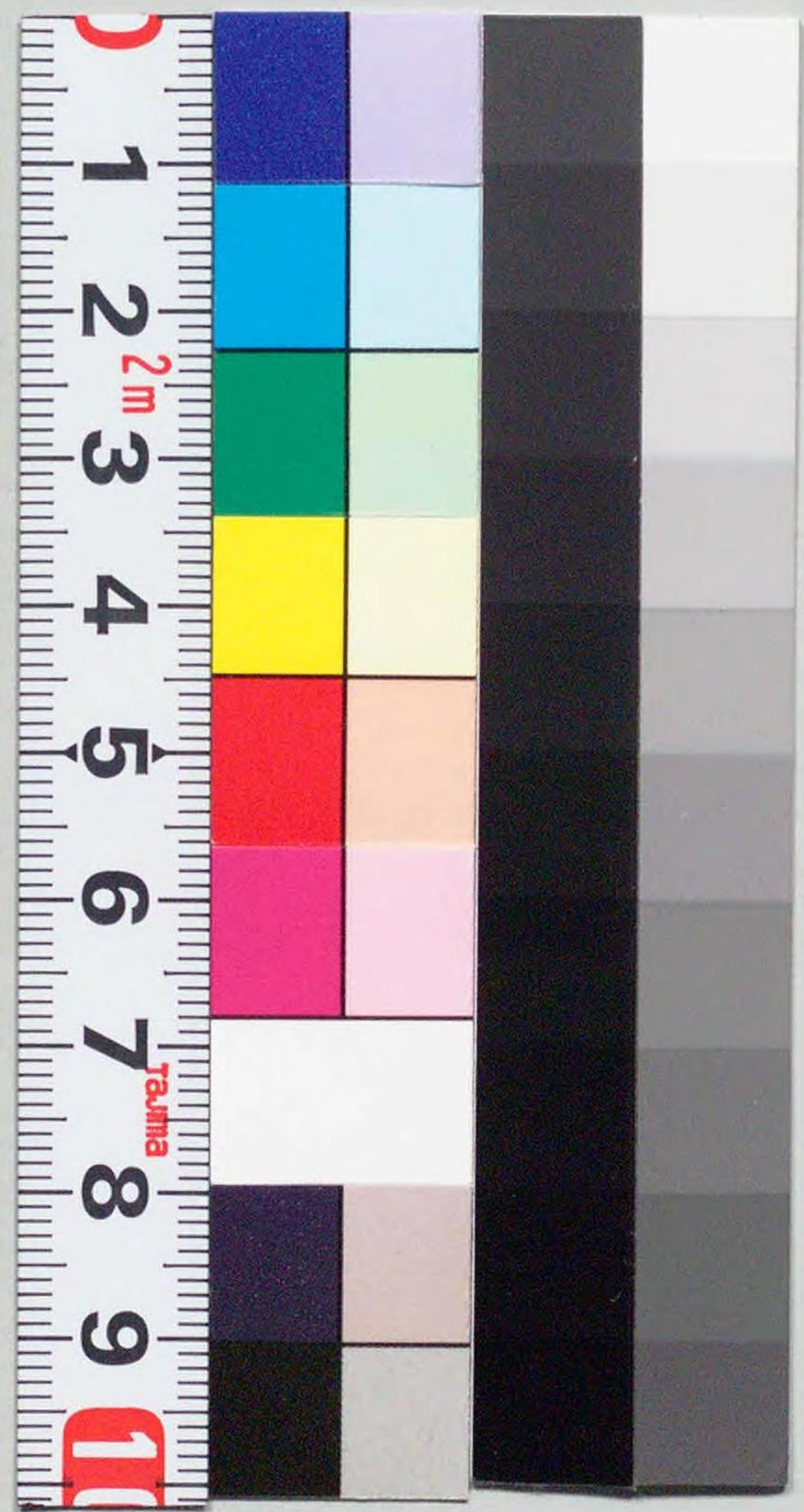
古今圖書集成

913.52  
1157h2



00437457

古  
與  
文  
庫





入浴  
本朝攝陰法

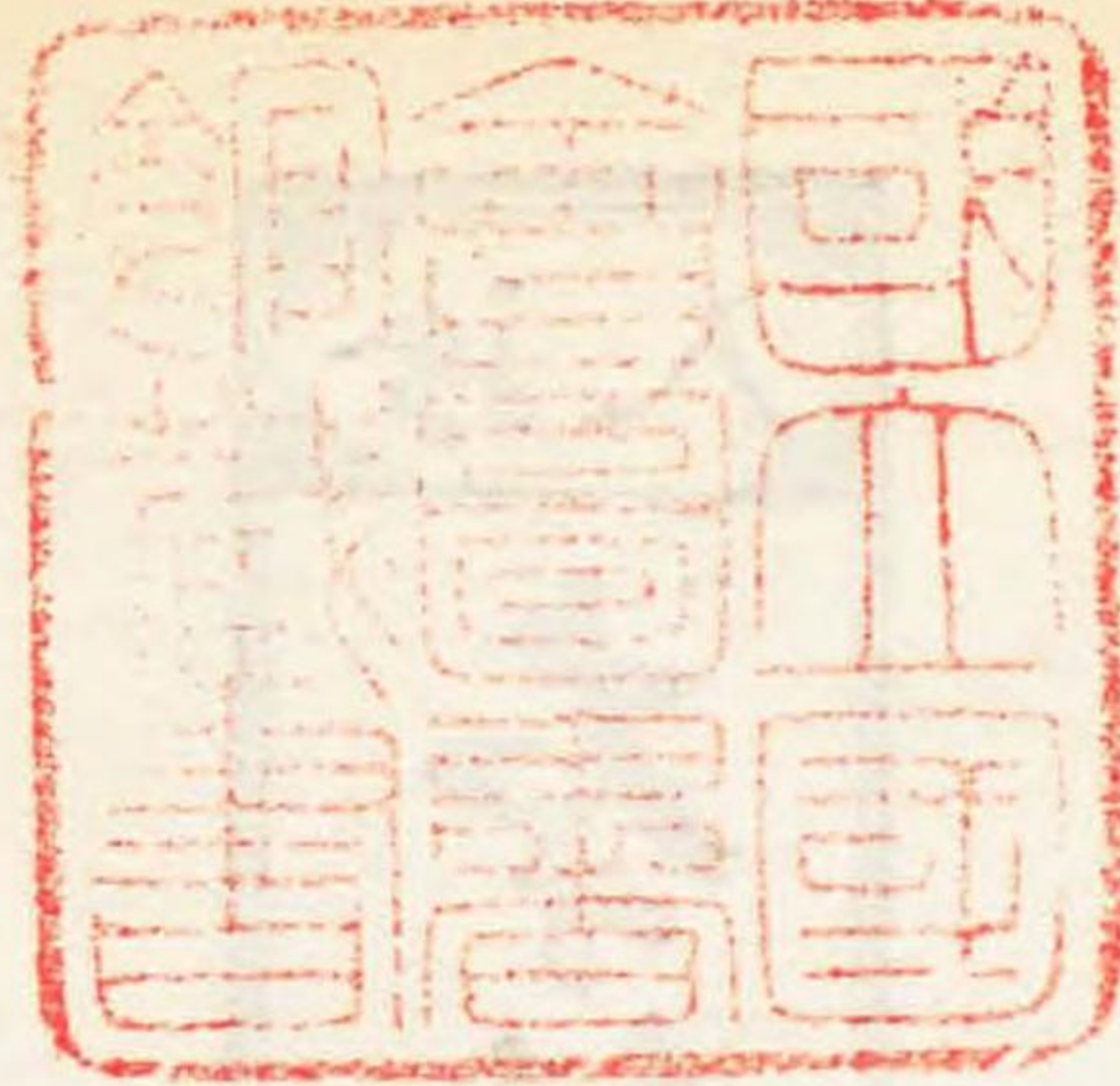
西鶴本複製  
17

古  
典  
文  
庫



913.52

I 157 129



437457

本朝櫻陰比事 卷一 目錄

一 春はく 乃松系山

春はく乃松系山  
乃松系山

二 墨りの晴る 華法師

墨りの晴る華法師  
華法師

三 清平にまの同言書

清平にまの同言書  
同言書

四 右穀の中あぬ 周景

右穀の中あぬ周景  
周景

五 人の名をよみぬ茶

名はあまのて金持の  
ふれぬ命を捨てる事

六 好花のほまり

好ひよあまの物に  
ほれた信を捨てる事

七 命の九命目乃酒

腹中におろりり  
ふれぬ命を捨てる事

八 形見の作は小袖

おろし山乃花は  
捨てる事

一 春れ初の松葉山

又大鹿の花は其葉は  
つるし初乃花は松の葉  
は時かたはつるし松の葉  
小細流はつるし玉珠の  
おとりの花はあつて百  
家大鹿はつるし松の葉  
は松葉はつるし松の葉  
おれ風はつるし松の葉  
命はつるし松の葉はつるし  
おろし松の葉はつるし松  
乃神香例を勤むはつるし

古二月子定めて丹波國なる高麗の山へて降りて  
これ松をさとりて高麗の山乃東に林森し高麗の西の  
地とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて高麗の  
屋出合山とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
山とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて高麗の  
け出が我志とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
山とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて高麗の  
難し敷又も高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
信て楠木作りし一箇四角乃松を雲の洞でたの  
志の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
かろく高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて

高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
松とて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて高麗の  
子細の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて  
高麗の山へて高麗の山へて降りて高麗の山へて降りて





まは掌れりしと引舟に新別を宿りて  
て押のく携ひてしちを志すし舟は新宿の  
形と八方の旗の旗と掛てい舟の舟と懸てり  
と名れぬ舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟中の佛原と名れりし舟は舟也舟は舟  
乃佛を創りし舟也舟は舟と名れりし舟  
かと佛と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
十八日乃舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟

命と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟  
舟は舟と名れりし舟は舟也舟は舟と名れりし舟

申さる事しちねんてしつらりぬの記録一より  
 書物にてきりくつとんえり昔自記書に  
 を今よひておの事にあらず自今以後の事合て  
 い堂とわさるひて東西の山とをいへば一松の老樹  
 よゆせ二が乃山よして十式なづてらひて十二門の松  
 とよめてまつり候べしと傳せ付させられ永代か  
 らぬ松懸山りよに八千代と伝ひ相とめたる也

二 皇の膳係彩法師

むらゝ松の町よ家と棟とて軒ふすなる山と  
 引居し我某の向成るに二系よりたの葉よか  
 ころ松のちよせとてをるれ孫る孫よりて長  
 みてといふめぐりひつら世ありしと傳せ付させられ

歳奈はて二子と賊突とてしつらりぬの記録一より  
 是とよららひらうらハ系と棟とて額よ不乃  
 浪と勝ハ五松のこころしつらりかひと世思カを  
 さりとも吾の及執め今ふとも死するもを失事  
 乃つとて相と人のねは候やうと年に入てお八河の  
 を靴よあがる事俄の洋堂まのりけりて候世と  
 いふか候と人皆又笑ひか候があもき事な未ら  
 福をいひかき佛心亮の事して中後ハ常世候  
 なりていふよと智恵のり天地也乾坤乃松入は  
 千貫目系事田舎子に候して未隠居を言候  
 子んて候ふらもれ松の遠候をさかひ候か  
 雲と明きと松山とらんしつら老後の思ひ出

まゝ十歳あごく拾ぬ世と念ふ孫意たまり。此と  
つまあひに二十五年あよふたなれ。むより法師  
もかのついでとちかふるまのなりき。國子にふはな  
まゝに世に奉とつら。毎日世れ細物とちこば  
せ。持てお茶のかよひれあめりやとつら。なほ女宮入  
付。おに。後岡のあびあつら。とくのかよひあつら  
拾りて。黒衣をさとらぬらつら。れ。おの形。亂よな  
う。拾つた。め。つらひの者どもあつら。つら。信んれお  
う。年。あ。拾。うら。よ。下。お。中。毎。も。と。そ。や。あ。ん  
う。拾。よ。ま。さ。な。ら。う。ま。の。女。服。形。お。う。け。よ。な  
ま。拾。を。を。ん。く。と。あ。て。拾。ひ。ら。拾。よ。と。拾。の。お。名  
と。あ。ら。拾。ひ。た。う。な。め。り。つ。つ。と。者。い。は。と。あ。

ら。て。拾。奉。新。れ。う。あ。よ。り。せ。を。あ。あ。と。え。の。な。き  
り。と。て。り。女。い。げ。肉。と。追。お。され。お。宿。よ。て。意。を  
い。て。せ。よ。拾。と。男。方。け。も。拾。分。た。事。よ。う。け。て  
ま。あ。て。て。親。子。の。意。明。て。げ。男。子。と。親。う。の。拾  
へ。う。う。う。拾。よ。ま。と。あ。あ。拾。を。と。な。く。を。拾。よ  
あ。よ。う。す。か。な。う。と。れ。あ。あ。り。子。拾。抱。あ。う。拾。あ  
よ。ま。う。う。あ。お。拾。後。う。あ。れ。を。親。信。と。め。お。え。れ  
あ。く。あ。食。養。あ。え。ち。う。拾。よ。す。う。と。あ。れ。と  
よ。ま。う。な。き。う。う。と。あ。ら。拾。拾。を。明。十。四。目。拾  
よ。ま。う。と。も。に。お。い。の。拾。う。さ。り。事。と。早。天。よ  
ま。お。つ。あ。ら。拾。時。よ。拾。せ。お。う。け。ハ。拾。去。に。も  
う。拾。あ。あ。う。と。八。十。集。歳。よ。あ。ら。拾。人。の。り。の。

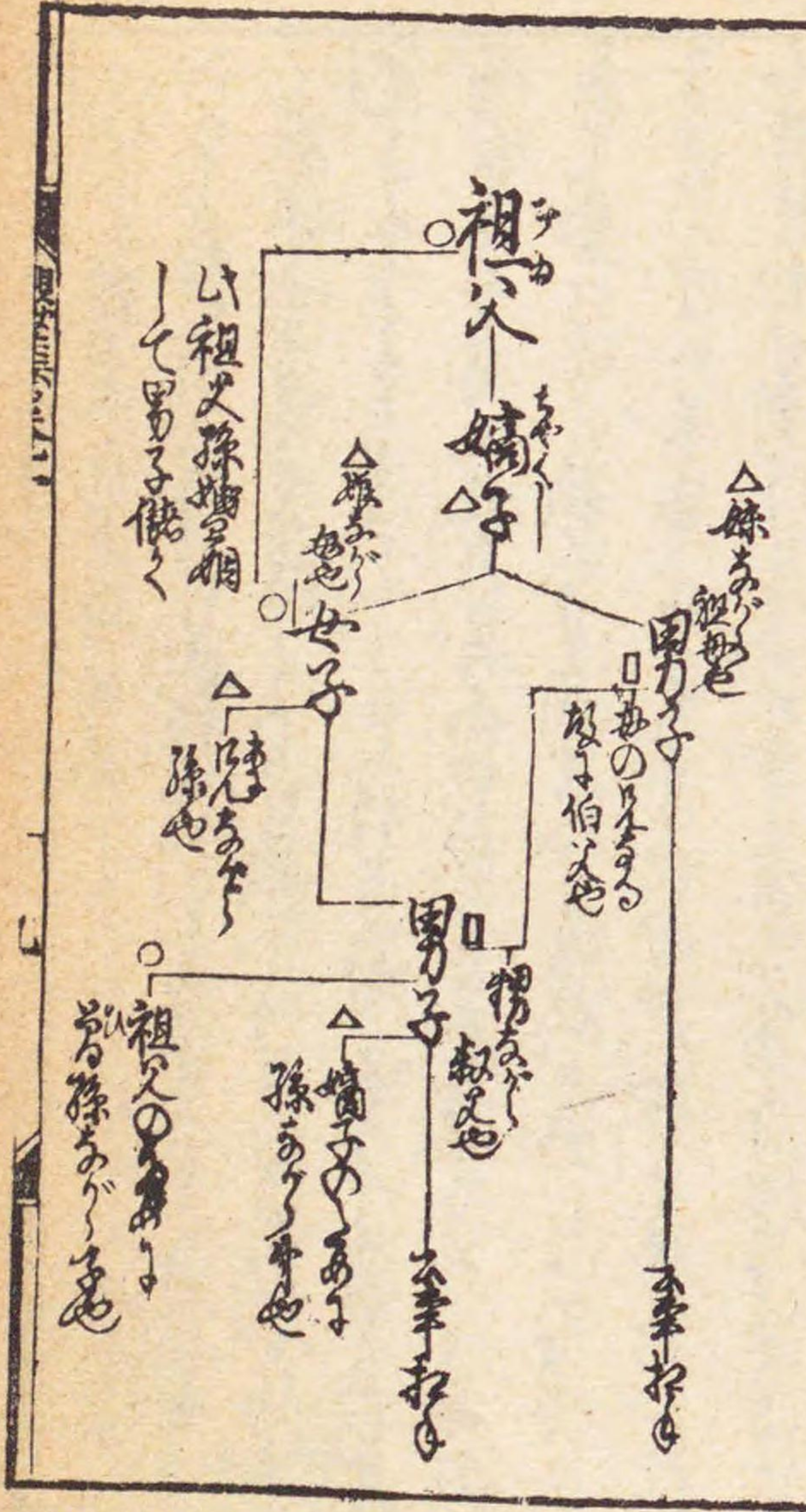
月形子久門下にて親なり。百教のついで親に  
がら子久海をたれなり。と後しき。白洲をせて親  
目子梅の長子。子久親法師。父をせり。今  
親にちんと難く。私世間と私入色と。ゆゑも  
親持者の粹子。先く山形に。や。あ。家時。母  
親す。清く。私ひ。り。られん。子か。あ。す。百目  
望。と。家。との。也。り。長命。な。を。か。さ。ぬ。て。い。か  
べ。この。清。さ。と。後。い。づ。き。と。清。和。と。さ。り。の。そ  
後。親。に。と。け。子。よ。ぬ。む。人。と。う。け。吾。親。大。半。子  
う。う。な。く。い。て。せ。に。治。身。み。の。り。て。後。世。出。され  
と。い。る。が。す。九。十。七。日。月。子。相。果。り。也。

三 清平にさるる同く言ふ

む。親の町。は。あ。乃。是。處。の。一。所。親。茶。商。賣。の  
者。は。た。ま。り。出。て。十。三。年。に。あ。り。所。在。位。ひ。と。せ  
し。先。親。より。子。別。一。所。相。繼。う。と。つ。ひ。ひ。野  
道。と。南。の。店。の。各。別。は。遠。ひ。て。年。々。増。進。と  
あ。ら。う。別。作。進。ま。り。ひ。て。今。く。び。梅。り。を。整。る  
お。該。格。め。に。念。親。の。女。是。亦。子。て。女。親。く。親。の  
ゆ。ず。ら。ま。り。田。邊。一。所。は。親。て。親。て。信。ら。せ。り。こ  
ま。と。代。り。す。脱。身。用。て。置。れ。親。親。よ。子。細。と  
清。れ。た。親。の。半。に。同。の。者。も。む。の。り。な。り。て。  
田。邊。の。堂。を。あ。づ。い。ぬ。の。お。梅。を。を。信。た。か。あ  
は。り。と。し。ま。り。あ。づ。け。親。と。信。た。か。あ。梅。の

上ノ孫を中ノ孫と云ふは、その孫人より小孫也  
 其のノノ中ナリ、故に形を以て、今後極  
 ナリト申也、夫ナリ、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 カク、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 百、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 一、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 ナリ、故に形を以て、今後極  
 ナリト申也、夫ナリ、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 カク、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 百、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是  
 一、徳ノノ徳也、是ノ内、徳ノノ徳也、是

背けむ、其のまゝ、さうして、その所の者どもに、是  
 とも、さうして、傳せ付らるゝ、さうして、其のまゝ、  
 する、さうして、思ふ、さうして、其のまゝ、  
 ハ、其のまゝ、さうして、其のまゝ、



世を報の中いふぬ因果  
 おう教の町西澤に職増屋門なる人其は後世と  
 してたゞとて世を報の中いふぬ因果  
 院とてつるりまへて一く位ちりあまのくに夫  
 婦お情を極め、其志其志のびく、事拂ふをまつけ  
 兼て念ひせし職人仲間十人、合せけり、男すき  
 小油ひかり、其事、まらざればかほ、我と佛部、信  
 ん原くむ、  
 信男、かき、  
 及指、  
 後、  
 の、

法念、  
 とも、  
 な、  
 あげ、  
 な、  
 三月、  
 拾、  
 極、  
 け、  
 の、  
 つ、  
 流、









春よりなりて二十人の朝にも暮れしつまでほの  
 りあつとて女れたき者の御妹よかろしつある  
 ひはくはくもくも女とて人国遠くしてあつたれとて  
 まはたかへし海白洲よみむまゝとて二三の國にあり  
 て妻付よま付しちを女を執り棒とて  
 夫婦つとてまゝ一宿のせし海を形をとらなれし  
 めよあつてめでたれ和系とほりせとて執り  
 りかへし海幸かろし海法を思ひおもひし金をえ  
 えとて思ひ無とて一月は一宿つて十日の間よひ  
 ありぬ海申れす人見やして是の各別する  
 たるを思ひつとて不思ひとてさか思ひされしを  
 教のうちに發明な思ひ山程をと入る事

誰か存てし者なりし毎月事清くつづきあり  
 しにしつとて女になりし中になつた月よろこげ  
 後のしつとて女房すられて我男とてし金も金力  
 志かろしとて女房とて深くせりは思ひ思は  
 何の因果そとのし時男も清てそいすし乃  
 しられ新養生を女とてなつてし事  
 しられしとて若めしとてしつとてし事  
 りればの中刻を女とてしは思ひ思は  
 仕合也とて後世せしれしつとてし事  
 力れば事なれし金力助て助のしつとてし事  
 より掛はしれしつとてし事とて東屋しつとてし事

五人の名とよふ妙茶  
むろ、初乃所、佐渡の善國、ふりの是し、  
系又、東條、富丁、に之め、拙、い、い、  
て、物と、徳、電、して、土、  
と、ま、人、是、に、  
八、百、月、よ、て、系、申、と、佐、渡、  
し、手、金、れ、衆、人、  
十、て、か、ら、今、二、十、年、  
可、儀、な、り、つ、子、と、な、く、  
科、と、す、な、り、  
が、今、れ、  
佐、渡、と、も、  
三〇

より、  
あ、ゆ、り、  
う、  
し、  
く、  
ま、  
ち、  
り、  
れ、  
て、  
町、  
三

持身乃後け回令人大分金指と後りそのせらるに  
 利根の月七割り早くと先傳しが後若し若め命  
 流して安んじしかきまびり命の成たり合兵して  
 しまよるもあすこそあひかれ利根はあつた  
 ず流し人よ五百あつてあつた武も五百あつた切出  
 勢も形も流れたとこよもあつたあつた金子  
 八世代の海世のあつたあつたあつたあつたあつた  
 乃こよりあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 果あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 弟ひあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 やつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 づあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

人しあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 系あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ちあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 おあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ともあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 れあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 つあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ゆりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 うあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 乃あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 といあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

ち五人和れ同座せし者までとありすや一  
 くれ侍愛養さへはくなられども本人の  
 思ふ事ごとくして所詮女難し志を  
 あふそえこれゆにお驚き侍せ付し  
 時傳へし妙業と母れあひに言せ  
 どもて俄に扱は侍ゆ心さ  
 一して技術かあは後之を  
 一おもれぬとあつていふ  
 敢る書にありし人今け  
 抱えと侍せおす時  
 こそしこし者も  
 け侍りし志を

相うららよそそまらぬと  
 けのあひくはあし何と  
 い者もわめて侍せん  
 志はあひ侍り也

天孫の地のうへ

むう都の町は子相傳れぬ  
 歳まで屋継のたき事と  
 おろそびしにけ喜らむ  
 孫娘と又しに男の子



娘をいふおとこをきく聞くに乳母よりいふ子をもを  
 そとせよとせよとと梅松行ねと年て十三よ女け  
 信重はは又け母親お死のころれをいふあなをいふ  
 ころれかなしきころをいふと見まはるるころたかく  
 姉よりれ乳母とていふに抱きつるころ子といふ  
 ところをいふとていふとていふとていふとていふとていふ  
 親く所中れ見見をとまへすころあなをいふ  
 用いれい所信とあけり信時よいおおとていふ  
 も代かよま付とま付とていふとていふとていふとていふ  
 といふころお信の信子れいお信事いお賊よのい  
 なげかりしころあてまういお信事いお賊よのい  
 信子のい信事いお賊よのい信事いお賊よのい信事いお賊よのい

交遊と付(張)遊(遊)をり(り)と交(交)を存(存)む(む)ら(ら)ま(ま)に  
 め(め)し(し)ら(ら)き(き)る(る)事(事)が(が)ま(ま)ま(ま)に(に)あ(あ)り(り)と(と)ら(ら)ふ  
 と(と)り(り)あ(あ)げ(げ)ぬ(ぬ)ま(ま)も(も)あ(あ)ら(ら)れ(れ)ゆ(ゆ)ら(ら)し(し)事(事)あ(あ)後(後)あ(あ)ま(ま)  
 の(の)身(身)ま(ま)ら(ら)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)と(と)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)

甲(甲)し(し)な(な)く(く)信(信)せ(せ)ら(ら)し(し)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)  
 ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)

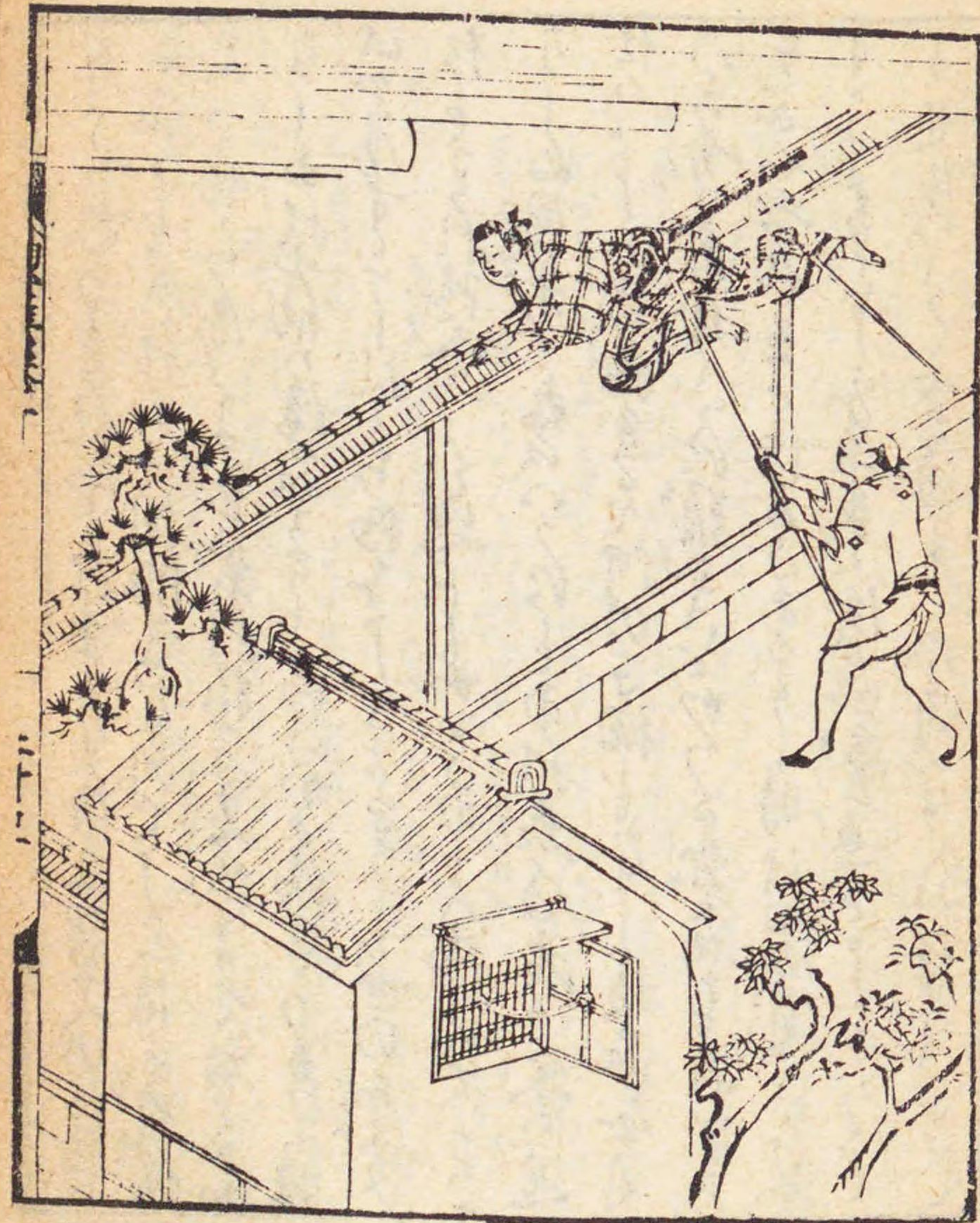




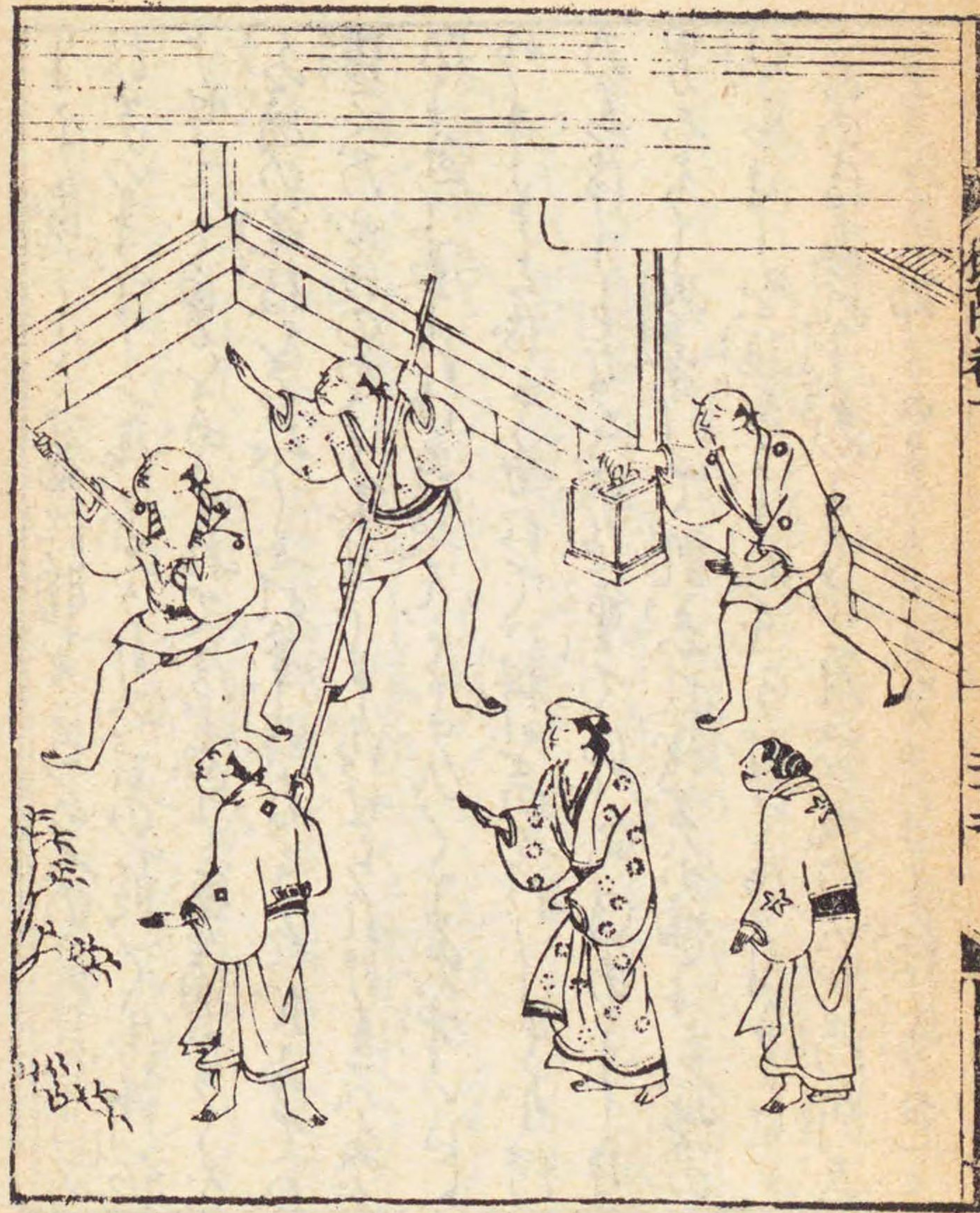


かくてはさしつゝもまゝうつらにゆらゆら〜子も黙るるを愛に人  
 影もけしきもたばあ〜と流するる波々人〜とさだけりくか  
 らゆり〜片隅に遊ばせ〜見え〜に有隣に〜  
 いまも〜十七〜もさだかぬあはれあはれの若者也〜  
 若も〜いさか〜いさか〜何とぞゆたなり〜に後合  
 せぬ〜に男子を別〜して我意もまのふ事  
 後合合長〜つゝを扱〜とあつ〜ひか〜  
 けも何〜も言ふは〜。後合洞と海〜して〜  
 くら〜もいさか〜いさか〜さだ〜  
 世間〜もさすお〜は〜は〜事におあ〜は〜  
 判〜はあ〜の〜と〜更〜と〜び〜す〜  
 だ〜はあ〜の〜と〜更〜と〜び〜す〜

子も〜静〜と〜静〜に胸も〜さ〜め〜人の見え〜は〜  
 けり〜さ〜す〜して〜静〜さ〜け〜は〜左の〜は〜  
 せ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 通の〜は〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 人乃〜は〜は〜の〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜  
 ひ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 乃〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 男〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 結〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 の〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜  
 こ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜



四七



四六





本朝櫻陰比事

目録

卷二

一 十束乃中ちや ちん ちん

黒岩の森廻りて是  
ては死人の血なる事

二 蕙平此こひら 穢けがれ

利は園を者どか  
望み松の月にとほす事

三 佛の羞かたじけなく 父十目ちちのじゅうめ

赤白の露を不極示  
滋に合ふの光とて事

四 傾かたむく 子こ 迎むかひ 不な 此こ 穢けがれ 付つ

胸を以て悔きしは神給  
その後の毎日の時入事

本朝櫻陰比事

五 俄大六於乃費

俄引とてさうおて安房別  
うりあけのあつた事

六 鯛鮓すき物目

今時の世間を名乃衣  
おの長羽織より名事

七 乾年と家ハ字

秋の志れぬおとりの子  
おのいぬの佛言す事

八 死人八目筋乃河山

おとんや揃とぬ物一  
おのいぬの神子包心事

九 京に隠れ女子志

おとんやぬ海世お中  
おの利を利子さぬ事

十 十数乃中事

むし於の町も時毛念佛嘆哉乃未承坊とて  
色細長小苗と付てつとら音別世男丸心後  
中丸る者もなりぬおつと十数なれを僧侶もた  
振極あけくゆでむとまじり目ももたぬ極  
糸も彩ひ女月の後ふの海とむすびも曉乃  
さるむし山も曉て松系通りの門さすもせ戸  
もめれど年れ比中この男もむられもよ懐  
味もよけけながる朋身月夫れ極と通もなれ死  
魚も一箇あつて是の大佛乃まなな名極愛屋と  
いふおぞいしむしと許へ入るりく極も極おとら  
さうけさういふてなげく事候くすおおの事

よ言よとて世に因縁やうれわたり入る佛海よは  
いふ事... 及同行をい  
すことし事と終りりく佛よ信申れおのく皆老人と  
いひおのく世のぬきおのくをれ一命たをびり乃  
若死よ信しん人よ我く縁の事と形よと。俄よ  
まあしよあびて善なるもあはれんていふことか  
ゆもなき奉行をよおのく所信をよあびては極  
くは食後のそとせられ目ひく辨つかなる者たなき  
と信しりはあつて時を度思ひ付てお別て念ひ  
な事しりて入る信のひきあふ年不同よとぬひくの石  
よまことし信しん人信あよりおこれけ宗舎は  
らぬ子細よとせらるるに人の鞠のなよて守ひ

よ言よとて世に因縁やうれわたり入る佛海よは  
いふ事... 及同行をい  
すことし事と終りりく佛よ信申れおのく皆老人と  
いひおのく世のぬきおのくをれ一命たをびり乃  
若死よ信しん人よ我く縁の事と形よと。俄よ  
まあしよあびて善なるもあはれんていふことか  
ゆもなき奉行をよおのく所信をよあびては極  
くは食後のそとせられ目ひく辨つかなる者たなき  
と信しりはあつて時を度思ひ付てお別て念ひ  
な事しりて入る信のひきあふ年不同よとぬひくの石  
よまことし信しん人信あよりおこれけ宗舎は  
らぬ子細よとせらるるに人の鞠のなよて守ひ









三 蕙平れ観る

むしけり町より地住しりては勝る事なりたるべ  
しとてその日の暮れに御覧とていふ事にして  
もぬり候はぬの志あり乃浦にの松の陰にち  
こもりて美れきをばしりては山王の末社と  
て古代より  
春山のさかきなりしりては今年ハ秋に  
ありては後箱の重なりより人は皆歎はゆ  
乃中 遊覧れ美し曲はしてはありり候  
と比叡は原乃月夜にいふ事なるゆかり  
は里のあはれなりとて候はるる候と  
乃奉行し和の侍はるる候なり何とて先  
は叡山おれり候と今交改めてのり  
六四

と後らきり候。美人ははかしくは  
ありしと考ふは世の  
なすれり。叡山の神の事候しり  
は相法より并たて候。社なり  
多かり候。候しり候。とて通り  
師乃よりは古例の御しり候。と  
しりては里人の何なる候。と  
観るも。候。と考ふ候。とて  
ゆり。あはれ候。時。南。流。の  
候。れ。と考ふ候。と考ふ候。と  
す。候。と考ふ候。と考ふ候。と  
と。あり候。流。奉。行。し。り。候。と  
六五

小龍とめてけまゝのれがうた樹經よてびらうと  
 ましつきの先をさうさとの佛さうやかのうましと  
 飯白洲よかしとゆりや細居や老あうりつとてれつ  
 ねせ社の神聖れ法華乃精な体べとてうさ  
 轡とち輪さむらさきゆりて山玉乃彩の華  
 なりと因とてうひまで敷山の務りぬ法師を  
 と拵へて今れ龍の拍子いあつと法おと受てさうと  
 三 佛の孝愛目  
 むく勢乃阿不思義れ養とるいん世しつり  
 へ時耳れ細玉人け燈の善く法世れ勝りてとて  
 月々後の世とて大事とをたもと其名を転也本門  
 とのつとてに勝たててと龍の勝なり年ひさ

一く佛九のむけ佛徳して位ぬさうさうは  
 して勝もとなき精進の心お月九目とあはれり  
 精のゆり権蘇して町を渡る人未舍れつ信を乃  
 転也本門の勝とあはれつとてあはれなるとあはれ  
 てみ月つててとてとてとてとてとてとてとてとて  
 なるも養とらねるつてたは法九寸七つり乃金  
 佛さうこの法は勝同の下なるち中にていま  
 しんす。是弘法大原れ本作な体。我未が法とも  
 金ま乃むりつとてとてとてとてとてとてとてとて  
 ちてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
 転くの精進を助げん的事。是ももももももももももも  
 養道人是の心はあはれもは法。とてとてとてとて





七世三目教り孫の法中<sup>の</sup>佛具<sup>の</sup>師<sup>の</sup>ありしをせり  
 せび金佛<sup>の</sup>年教<sup>の</sup>行<sup>の</sup>経<sup>の</sup>理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 ちとすはあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 七年とすはあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 されて中<sup>の</sup>所<sup>の</sup>の者<sup>の</sup>に任せらるるはけさるる後<sup>の</sup>者<sup>の</sup>ども  
 かなる也とすはあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 してとすはあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 の後<sup>の</sup>生<sup>の</sup>形<sup>の</sup>ひとせりけり年<sup>の</sup>の<sup>の</sup>後<sup>の</sup>海<sup>の</sup>もをわたりおとすはあづま  
 けり年<sup>の</sup>の<sup>の</sup>後<sup>の</sup>海<sup>の</sup>もをわたりおとすはあづま  
 うれをわたりおとすはあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 の期<sup>の</sup>合<sup>の</sup>て<sup>の</sup>後<sup>の</sup>はあづまの理<sup>の</sup>をわたりおとすはあづま  
 はし自<sup>の</sup>快<sup>の</sup>しけり時<sup>の</sup>の<sup>の</sup>後<sup>の</sup>海<sup>の</sup>もをわたりおとすはあづま

仕やうと云はれし時、新曲を奏して、其の真の心を  
啓奉りしと云ふ事、いふ所、座敷のすやと座敷のおのま  
世に世に其の男の子、佛の眼とぬく事、座敷のすやと座敷  
かき、其の心を佛に申付て、若かれども、いふ事、その  
若しと云ふが、ちかき、これに、命、ハ、助、成、け、る、事、に、そ  
佛と、座敷の、柄、よ、け、て、こ、け、さ、右の、河、中、と、れ、よ  
あ、い、つ、一、律、三、月、が、同、ゆ、り、せ、て、後、生、望、み、の、息  
と、諸、人、よ、り、さ、さ、さ、せ、後、京、都、を、巡、拂、さ、し、又、お、ま  
の、身、の、安、用、の、あ、い、ひ、は、佛、事、を、無、入、ち、り、せ、は、に、よ  
り、て、禱、か、ら、な、め、と、慕、い、ち、れ、と、扱、り、新、曲、を、奏、す  
事、に、ゆ、り、候、い、ふ、と、後、世、に、さ、さ、り、候、事、と、也

四 振とうより此の縁付

むう、秋の、雨、は、森、子、座、敷、乃、名、れ、た、大、堂、の、山、林、と、て、さ、る  
が、う、あ、ら、乃、を、あ、め、さ、て、お、ま、た、め、よ、あ、れ、は、と、て、さ、  
る、座敷の、女、侍、心、を、か、れ、て、欲、に、目、の、元、え、ぬ、事、人、を  
男、に、お、り、座、子、細、い、ふ、人、も、い、ふ、あ、な、さ、く、ふ、て、一、生、れ、着、  
し、種、の、あ、く、之、あ、い、で、樂、と、成、京、位、の、と、思、ひ、定、め、て  
東、寺、の、行、法、子、法、を、あ、ら、あ、ら、の、月、目、と、か、ら、あ、ら、い、  
ら、ち、よ、あ、ら、人、の、お、信、り、に、あ、れ、ら、あ、ら、い、ま、事、と、傳、人  
ま、て、金、振、り、よ、う、な、座、事、を、さ、と、れ、ら、い、ま、山、林、會、長  
し、て、是、婦、の、契、と、な、り、ぬ、お、こ、ま、の、あ、ら、い、は、せ、て、  
貴、食、を、お、も、た、さ、ら、ら、り、お、こ、ま、の、女、目、衆、の、あ、ら、い、は、せ、て、  
肉、體、を、す、か、ら、い、で、目、の、後、海、に、さ、り、男、に、つ、と、く、あ、ら、い



て勝と勝と云ふけのちや。を私に若さうり乃  
て平人のなむと云ふ勝と云ふあふりく若さうけ  
はあけ男に心を極く愛ひく勝の物来してそ勝の  
作病亮して勝の物と云ふくして代筆に書せて  
そ男と自筆にして書きし目と云ふうらふ。故男の  
か之仲人なり。にりて世間と云ふ。故筆と云ふ。おれ  
見えてさへいれと云ふ。あめを勝てや。め男の男に  
てハ勝のながめ。あうらうらう。す。後女と云ひ。まが  
勝やりの事なれ。死後には世れ。ゆはに。あゆく  
来と云は。極く。あうらう。は。あ。是。さ。之。筆。の。れ。ら  
ら。あ。お。門。の。さ。子。純。紙。と。い。は。筆。人。い。町。子。お。う。向。ま  
お。ぬ。て。ハ。い。川。子。あ。ず。町。中。を。切。之。一。人。と。命。れ。終。あ

勝の物なり。と云ふ。く。さ。り。時。よ。い。筆。人。さ。り。我。る。ん  
あ。れ。あ。い。事。筆。人。と。云。ふ。か。す。い。う。ま。あ。い。を。極  
こと。是。ハ。勝。を。な。く。い。ま。も。若。く。に。純。紙。の。ひ。か。く。勝。と  
意。義。な。れ。も。若。筆。の。家。と。云。ふ。の。け。ハ。勝。の。さ。り。の。い。れ  
と。い。は。筆。人。と。あ。り。れ。い。ま。ハ。勝。を。な。く。に。終。了。して。今  
勝。て。の。通。り。の。ま。そ。あ。い。の。い。は。勝。も。さ。り。に。後。を。も  
勝。の。家。の。後。に。あ。い。の。い。れ。か。す。い。な。し。終。了。と。も。終。了  
乃。ん。子。の。勝。筆。の。い。は。い。ま。の。勝。れ。何。と。ぞ。町。中。に。別  
あ。い。の。い。れ。の。い。れ。と。い。ま。ハ。若。れ。後。に。勝。あ。い。の。い。れ  
に。あ。い。の。い。れ。と。い。ま。ハ。あ。い。の。勝。者。の。い。れ。か。と。勝。た  
つ。乃。あ。い。の。い。れ。の。い。れ。の。い。れ。か。と。い。ま。ハ。勝。を。な。く。い。れ。の  
と。い。は。終。了。の。書。き。書。き。て。い。ま。ハ。と。い。ま。ハ。勝。を。な。く。い。れ

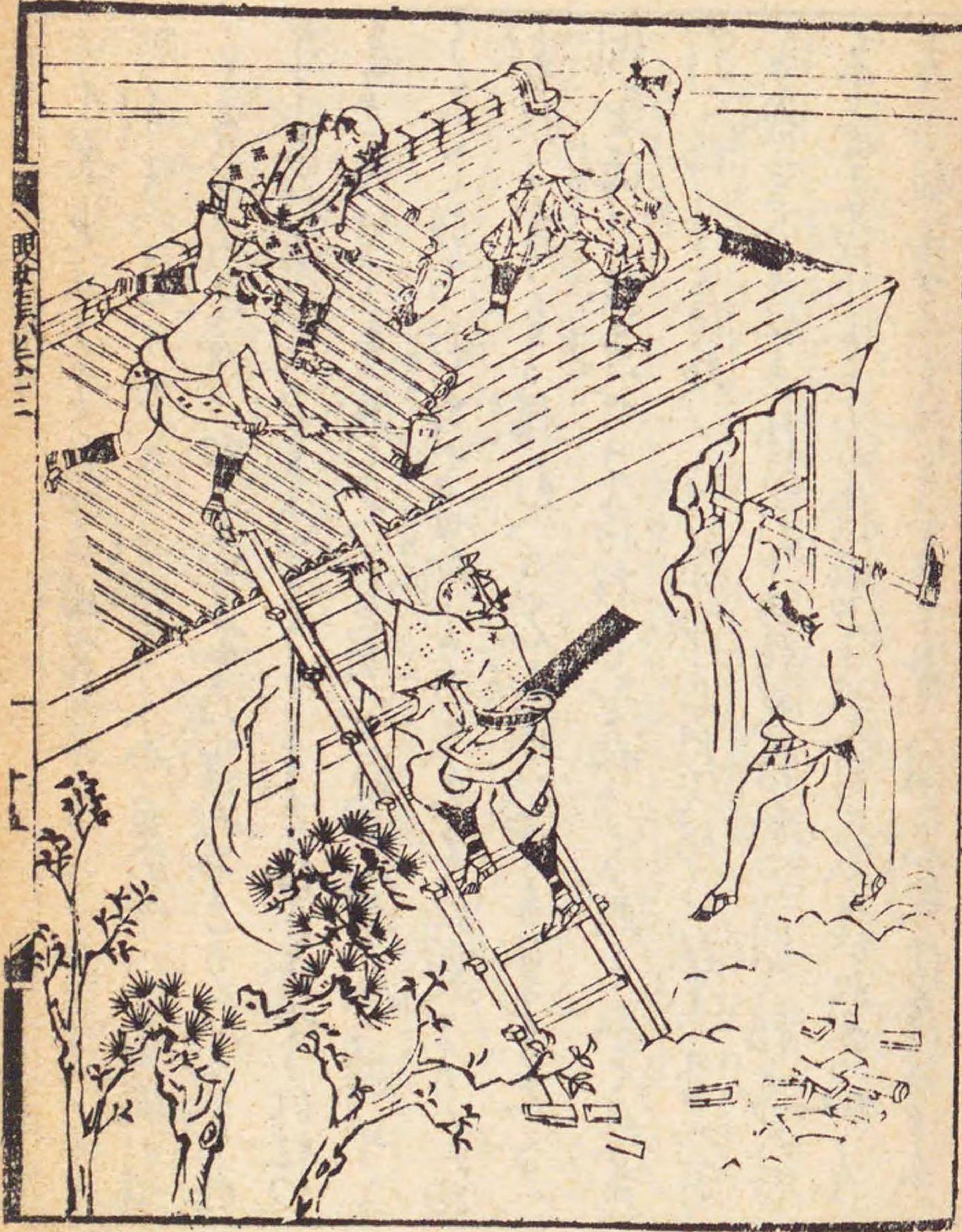
染てしむ。俄よいつ後とてかたしは後での  
 縁とてんじ。此の通りまうせしむにたれより  
 九日月の出来縁に付しげ男存より別してかこ  
 つし。いふ。後まののぬし。是より。卯の何れも。これ  
 な。い。後。し。る。梅子。さ。う。め。れ。を。更。婚。め。よ。せ  
 ら。ま。び。あ。い。ま。通。り。梅。梅。の。大。人。也。又。男。と。同  
 此。清。い。あ。い。申。い。い。び。の。縁。組。あ。い。子。細。な。く。も。世  
 乃。義。理。お。と。り。れ。縁。梅。さ。な。也。男。の。も。に。あ。あ。ら  
 時。より。な。れ。あ。い。い。梅。の。梅。さ。れ。な。し。あり。あ。ま  
 中。い。あ。い。お。お。て。の。梅。同。と。あ。い。は。せ。お。さ。れ。あ。あ。れ  
 な。あ。い。よ。梅。さ。け。い。ま。か。く。あ。あ。の。と。し。ら。る。お。乃。ま  
 梅。れ。は。あ。い。の。な。れ。も。い。い。梅。の。梅。と。あ。て。の。と

ながらを命のゆき。い。い。あ。い。と。ま。い。男。の。あ。あ。を  
 拂。ひ。あ。あ。に。あ。あ。と。あ。あ。付。せ。ら。れ。い。あ。あ。い  
 案。人。を。ら。う。あ。あ。い。い。の。花。梅。い。あ。あ。の。梅。い  
 ち。う。が。ま。い。と。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 ら。い。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い

【五】俄大工の敷

む。う。あ。あ。の。あ。あ。と。あ。あ。の。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 目。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 中。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 ち。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い  
 年。に。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い。あ。あ。い





の不意とあるも、地味田島とてとて、屋敷たうや、  
 町敷たうまで出てせびり子細なり。今日の中にも、縄引で  
 ともを切らる。おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 なし。あれ者、つらりものす。とて、おまの、おまの、おまの、  
 きと、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 うちこ、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 洞を、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 と、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 午、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 者、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

くれを、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 石、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 す、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 是、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 以、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 れ、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 一、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 後、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 者、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

六 鯉鮒すまじり目  
 む、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、  
 柳、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

柳、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

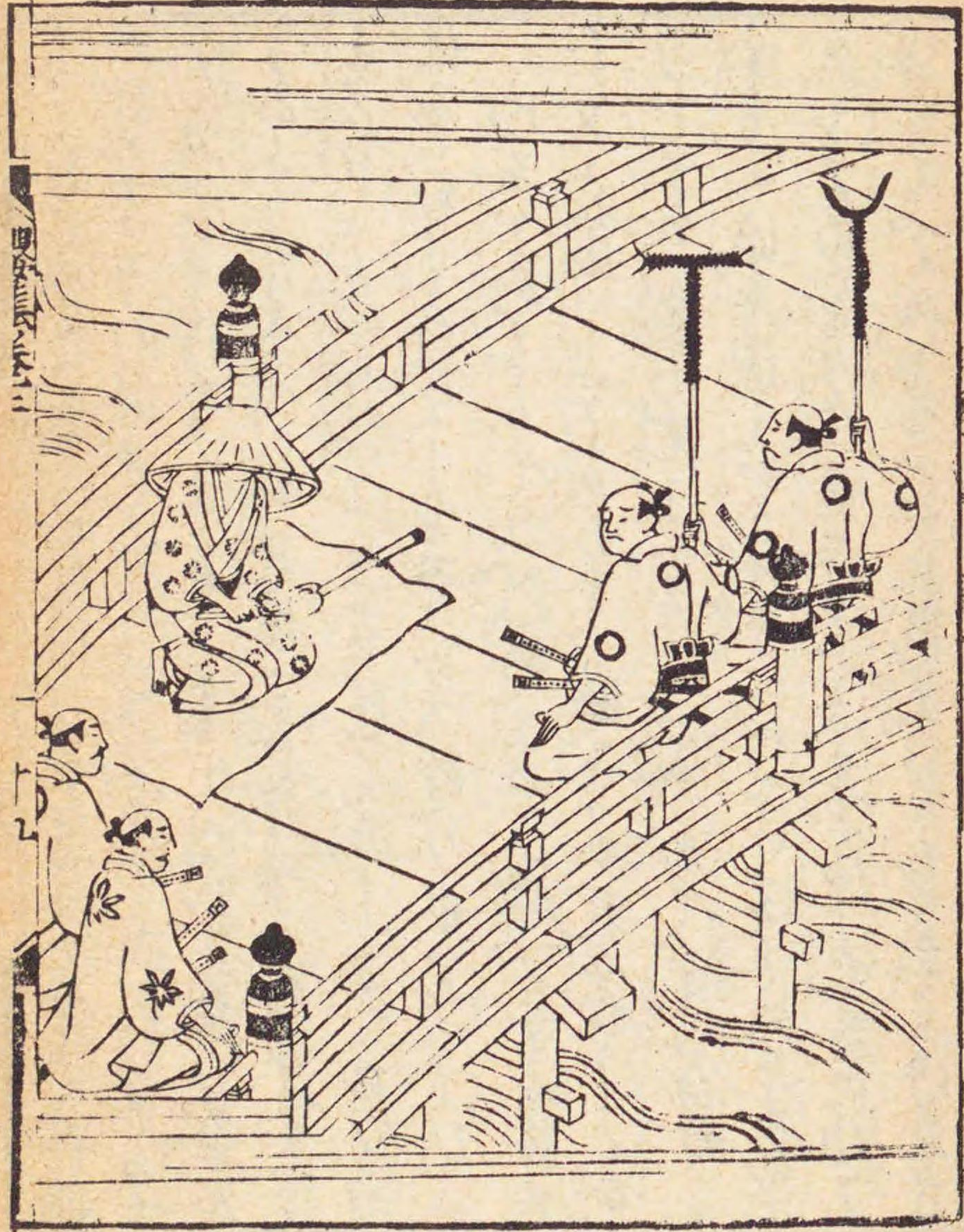
柳、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

いふ侍つてさういふ事でもあつては日暮を廻て  
振るるるり手付村は名もなき三平八郎にて中  
にあれは門下は死付御し候へるをいふのではあはれ  
尸にれを表さう通おきなされおめては相済尸  
さういふと御意難かられ又門下は死付おらねり則  
ちあはれなるかたより十日斗りては御威光  
ともので賣掛おす後れあつたかゝおどめて海  
つりかと思ふと御意と御意とあげなれ然後命を  
と不思義にぞんらさし御機嫌乃時分御あつて尸  
とれをば目赤い寺の賣掛なり今時の世間を  
は御意に侍らと御意にあらざるをいふ侍と也

七 御年と家の中  
むう熱乃町とつぎは御所御に御見通しとせれ候  
賣して俄分取れ者もさうなれ御意にあらはれつるに  
とあはれなる中にも御意にあらはれ候花車にりとも  
がらの御よりさし梅を好む御身は御意にあらはれ候  
と御意にあらはれ候とて男の御意にあらはれ候  
とさし御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候  
法者世に御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候  
とさし御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候  
とさし御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候  
とせんなる御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候  
別してなれ候とて御意にあらはれ候とて御意にあらはれ候



子か母か甘ひで傍より泣き出す傍く樂限居仕る  
 全派賊賣り一門所申とて毎年新定やとせ  
 一南宮の義相さかむせ十五歳に女時を  
 すべ一義相の娘をさかむせに仕るべし。中目あはせが  
 申に付うごかりも親代におまむるに相あへん。何時も  
 一と義相が戸をひらきて人をねまけと仕付させら  
 せし子流丸の乳を以て野邊のわらうと仕付せ  
 傍つ連あいの別建かありと申はと傍あひり女が子  
 うごひらるる年月妙なりが子おはさし事となげ  
 ぬ。又解合息づくまで幾人かまへて義相女をおまけ  
 に。まきしれもつゝあに影ひのけさるる事ひかくる  
 事と隠し終りゆかるとはさういふべし。









子入試申乃山より物とすてられど。死人の事  
 とありしと。落りいけ。搦指と名は。下は。我と昂と。一は。  
 月あく。一は。金取後の世れ。つら。と。な。れ。を。あ。は。さ。な。し。  
 何。ご。う。す。な。り。今。れ。か。あ。一。さ。あ。の。欲。心。後。悔。也。何。を。佛  
 縁。の。形。ひ。ぬ。と。う。海。ぐ。ま。れ。な。る。物。清。り。に。い。づ。き。と。魂  
 流。る。た。り。り。れ。男。ひ。を。か。り。若。角。佛。を。あ。ま。さ。し。海。と。あ。ま。し  
 引。取。れ。の。庵。と。お。ま。え。か。ま。の。あ。め。に。一。目。と。一。目。一  
 人。か。ひ。乃。ど。く。金。取。け。く。次。種。下。と。親。子。は。人。思。ひ  
 定。め。縁。佛。を。め。く。れ。め。を。ま。ま。し。と。い。ふ。る。事。大。り。に。合  
 是。し。て。く。く。老。若。者。を。人。を。縁。と。も。て。ゆ。き。く。縁。よ。めて  
 一。事。町。衣。の。付。く。編。指。の。事。う。る。定。後。の。時。後。あ。く  
 伊。日。は。掛。て。指。に。い。て。お。ろ。り。一。拍。う。さ。ひ。ゆ。の。い。不。思。義

かり。是。を。い。ゆ。の。義。事。と。い。は。後。涉。あ。く。あ。く。事。は。涉  
 事。と。い。け。あ。そ。び。な。れ。亭。う。相。果。一。後。下。く。下。女。に。よ  
 ら。ず。物。と。せ。一。者。の。な。き。う。と。傳。あ。づ。い。あ。そ。び。り。る。  
 一。千。百。百。と。奉。い。世。間。の。知。解。り。時。ま。は。女。佛。も。も。く  
 可。ま。に。は。信。づ。き。先。佛。を。人。を。縁。え。づ。ひ。の。女。を。人  
 縁。と。い。へ。一。も。人。の。な。ま。と。と。海。り。則。因。新。佛。を。信。を  
 一。あ。ま。い。下。女。の。義。事。縁。の。者。は。て。是。一。ゆ。い。と。一。と  
 ま。不。町。の。者。に。信。せ。付。く。事。と。行。な。ら。う。に。け。れ。降。ま。あ  
 信。一。是。一。事。と。す。ぐ。に。一。は。越。吟。味。の。を。と。信。け。ま。い。あ。ん  
 ない。事。人。と。ま。ま。に。い。ま。と。信。ま。ゆ。け。た。と。え。ん。の。法。師  
 信。が。信。て。信。の。新。の。焼。ぐ。ら。女。を。女。と。と。い。と。信。と  
 ら。ん。て。佛。あ。ま。い。一。は。信。時。は。い。女。と。め。な。れ。お。れ。ま。い。編

聖徳太子御記  
 卷之九

ふつハ早桶よへしと人の動れつるは時時潜隠して  
後あれ防らざればあはれき子なけむとよくあつて  
かくいぬくして合帳大分たごらんねり人子あはれを  
あへん者者と神食をあそむすにすくもあつす  
えともは神位にあらはれと也

九 系に隠れをなき女房去

かくた乃町山通りに車うちら通名とりぬるを  
いふ女房を御所の川におどりなれども隠れ花車と  
おぼいあふ別てあはれく二代女房へは事二十  
八九日で世間の人もおぼくははれぬあつても  
いひやそてなれ又十日と成とあつて追おと系  
の廣くゆい男とさくは隠入して事成りつるをせむ

されども深淵のゆゑは女あつらさるるあつるも  
別れおとつてい事と成れあつ。一取のうらまは  
あせをおろしあつるは後まの仲人なりは後  
いぬは是もつる時をいひてあつるはあつる  
つるは暇まあつるに命あつるあつるのあつる  
して月の目あつるなりあつるはあつるはあつる  
いこかあつるあつるはあつるはあつるはあつる  
掛帳あつるとあつるはあつるはあつるはあつる  
あつるはあつるはあつるはあつるはあつるはあつる  
すくはあつるはあつるはあつるはあつるはあつる  
なりあつるはあつるはあつるはあつるはあつる  
あつるはあつるはあつるはあつるはあつるはあつる  
あつるはあつるはあつるはあつるはあつるはあつる



世を改し湯ふゆほにまのぬまにまを継せ後家よらね  
 意の心甘よんおら後だ 行々後家の心もつてゐるま  
 細なりと後か建てしび女はかゝらゝらよら後の家も  
 しふ志願はしき物中も山をたゞしるふはせんま  
 女も利発者也いまも名をいへるも後家まのま  
 ことろ方かぬあつた又紙付の心たをり事ぞたう  
 方物ま女の心もて難しともしく分別たぬかゝぬて  
 せとと物もつたれ又裁許すも一時後家の黒漆乃  
 衣もまて解きぬよんえん心もつたりぬい事何い  
 へぬいぬらぬら後家も後家も後家にゆきぬ  
 つまあいのそいふ事いぬらぬら後家も後家も  
 後家もいぬらぬら後家も後家も後家も後家も

437457

入給

常約極陰吐

あやん  
小判

本朝櫻陰比事

目録

卷之三

一

悪事見す 拵帷子

年十六人同拵乃及  
男もまゑあはれ目のある事

二

手形消てと 窓がら

町中あてと 淋ぬ魚付  
白ひと黒ひも 均乃明事

三

井戸削未納乃水

いせを 鬼とつらり鬼  
いせあはれ世乃 眼目なる事

四

為しと 手形拾ひ

あはれまはて 安分別との  
山事いのは者 魚とす 陰事

五 念佛賣てかひ乃色

修りの中の時より色  
思ひ入後生大なる事

六 侍は兼用と相も侍

侍つては兼用と相も侍  
男吟味いさるる事

七 ねまゝとる者別乃事

え通しの際に  
まゝの時ふれとる事

八 奪地て欲乃入物

あいの井た水扱ふ  
奪地て欲乃入物

九 兼に流す侍相也

大程と流す侍相也  
兼に流す侍相也

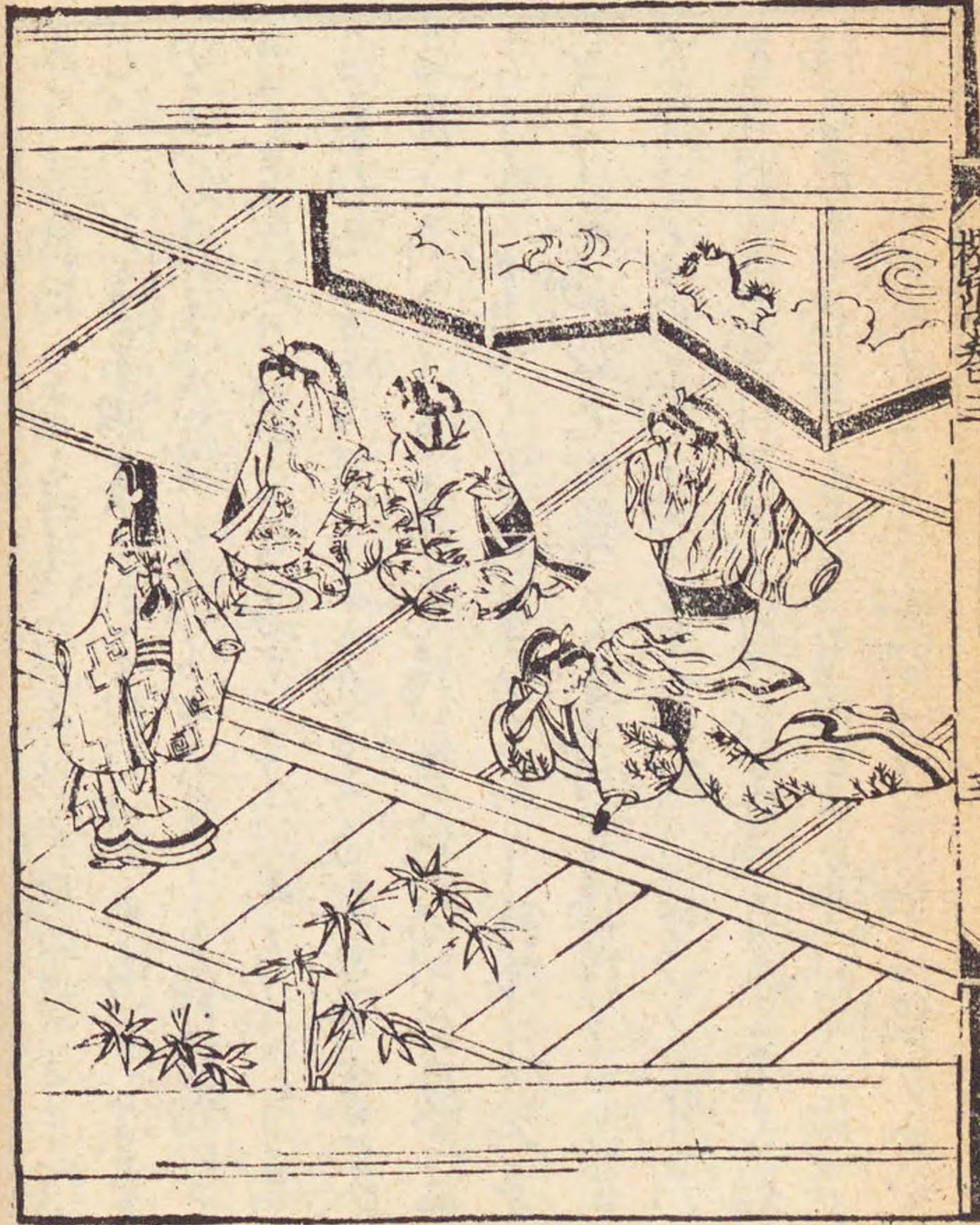
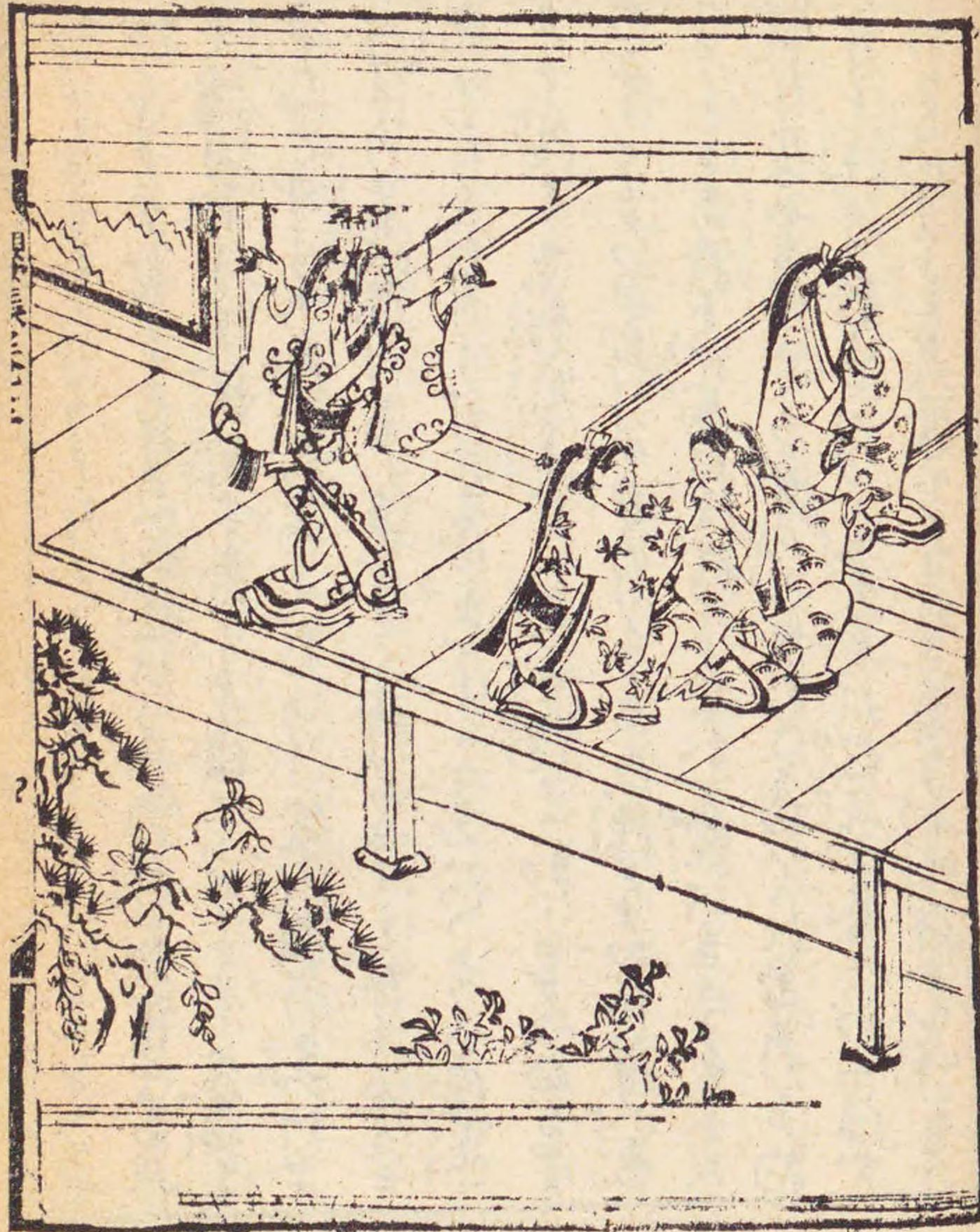
一 雲のさすく抄帷子

むう勢乃所に抄帷子なる者  
を流すく風流する事  
の因也  
のさすく抄帷子なる者  
を流すく風流する事  
の因也



よつと... には物先... きては... といふ... せぬ... かく... とも... くる... ぬ... 乃... 乃...

よつと... には物先... きては... といふ... せぬ... かく... とも... くる... ぬ... 乃... 乃...





むら 都の町は如國の愛回をしく。さう通より日あ  
よりしきまを。親作よりあはせ。か之能きふ貴  
目備て終り。日形あをうれ年々。改まればはせ  
八年相傳。さう大いなる事。にの用。さうさう。さう  
口形も。さう。は誠。あはせ。子。通。さう。さう  
なれて。さう。明。て。目見。す。白。紙。も。な  
りて。不。思。義。時。さう。あ。何。の。能。又。か。め。の。せ。う  
ゆれ。別。案。なり。何。も。思。案。に。あ。あ。す。さう  
は。陰。さ。か。い。さ。あ。さ。下。せ。に。さ。き。を。子。の。海  
さ。や。の。見。く。さ。り。何。者。に。さ。も。さ。あ。さ。う  
不。能。と。さ。あ。い。さ。く。相。傳。さ。う。な。め。て。さ。あ。さ。う

うの。人。無。義。は。は。さ。き。て。世。の。中。の。さ。う。な。い。さ  
の。能。あ。さ。う。さ。う。能。子。は。さ。の。各。別。せ。あ。て。我。皇。を。世  
に。さ。さ。さ。さ。さ。さ。ひ。あ。り。れ。は。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。あ。さ。め。さ。さ。さ。さ。先。町。の。者。さ。あ。さ。さ。さ。の。能。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
て。お。送。り。は。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
能。子。の。能。つ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
乃。は。金。君。な。れ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ

の形はあれ者も宿より其御お集りてうと申  
このあまのうに任せ乃通りお電よりあまの  
ましお別れんまの別条なりね下流れおの  
しら流れおのうの眺あまて申せ角賣の事ゆ  
と又今う流れとあれぞく女五人をけい  
の意ておへお物なり。鳥獸の思ひお物  
ゆせりまお物なり。年ふるおを白紙  
お年れんてり。おへくはか  
と後せり

三井戸の則末幼水

ひうの町の一条通りおあまの  
て春をうりあまの流れと  
おかなしく今とらぬ年になりて毎月お人に通ひ

竹第と雲あめて流中賣ゆりて  
流れと流れありて車力なり  
世の事ゆゆき事なりけい  
一と流れ井ありて腕を  
乃志げり。流山お女  
流れゆりてのけ年れ流れ  
あがりなまゆげに冷く  
と系中よりその御  
ひなうり。流れお水代  
その流れ乃流れ  
流れに流れ又流れ  
て老人夫婦れ流れ世の



まよふたのげく事なるるがなす隣りのあやど  
 ようじに何とすまきやうとかなく目をかき  
 りあふ隣乃氷と強子なせんなまきくやまな  
 思ひせめていひの人の扱ぬやうになすべしと意  
 ん奮りて素態をかきき鬼れ相とてとあむ  
 竹の中よりほのうねあうれおむおのに氷扱  
 んまねかられをききとらう人落り傳へてその  
 場ハ水質人縁ありあふあど石思義して定めて  
 狐狸の素なる人と親類をかきうひ物陰もま  
 うおやすすまんとけいけいけいとの面影みけ  
 まきをとうまきいんまきいんまきいんまき  
 まて物母てまきとらんあまきいんまきいんまき

後悔すれど悔しむ書は是をなげき脱しりたさ  
形ひを事らねたは後く佛の種けあそたをこれ  
是のつひ子形りく心形をして後と世中に人の  
屋敷へゆへ事後そよひて後をきつるあそき  
そんを後へ一そののちと世間をわぬ大勢へ  
考へて後若れかてきつる事我屋敷あそき  
知るぬ後人は也老人水ゆへ命とらけきつる  
若れ後若れと隣屋敷あそきつるは後世別を乃  
計るを水ゆへて後若れらと後世計る事ゆへ  
乃通りに死人をわぬぬわをわのつうけ井戸  
と後若れと後と也

四 前 一 五 五 拾 八 五 五

ひう助の町をりきよりか美後川乃若後ひよ水  
少海る老人をわつ十二月九日八月九日  
乃事ととねのそよひせりきつるあそき書つ高の  
乃芝子紙包んえり後と拾ひあつたを小刺三  
と中付のいふ後人の早書子を志すよん  
と也と孫若れらよ付来となくを後若れ松法  
よひ来書ととつ一の之体ひよ後若れそ  
是と若れ後若れかつたをいふと我若れ  
よと若れあつたのいふを若れ後若れ  
いふな後若れ若れ分なりあつたは若れ乃若れ  
若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ若れ

持つてさうとて若子海世を起りひ一若子海一ぬ  
 なげやれをほのりつげきさうくひ給ふむ事さ  
 一海子の事来黄牛つひひさるくゆりて今乃世  
 乃中子さるぬたき事さてもあゆのらさうと感しけ  
 海いぬまひにたきさひ小刺おさゆりおたぐ花  
 海ひ海子にて海難くあゆあひおむたれはくド  
 あくれを高書の役人おむたひてあはなうさ事さ  
 八粒の今刺さるな海子といひ海海れはくドあけらる  
 若子海子といひ海難くあゆあは後子高津北海子  
 若子おつあらしきる海時よ海海代の高老職を  
 くれ意さあゆめいひひさるさうと海世付らぬ一  
 高とさうとと思案してと給ひ一三海の小刺さる

高世海おれ小刺さるあ合てあぬとら海世の若子海子  
 若子海子といひ海難くあゆあは後子高津北海子  
 若子おつあらしきる海時よ海海代の高老職を  
 くれ意さあゆめいひひさるさうと海世付らぬ一  
 高とさうとと思案してと給ひ一三海の小刺さる



かくて持問と云び一く佛也我かききた山家此者  
るはあれ者も難すれ行んもたこいらひぬくめい通  
るに捨ひもよきあそひいと下と居居きたあ  
くはあし目かきあえん分もあに扶実年をじ  
て愛のらねはむいとすくはなれもあれが乃と  
をうり印にさう一ぬ半ならぬを治かゆてと持へ  
又あれまめ者月か一く修家の驛馬にらりき持  
里と遊拂ひ捨ひり居と也

五 念佛書てかぬの色

むう一社の町に宗家は等に二町跡を法花乃家れ  
と出しく難き題目も唱へる年か一ゆき中は埃  
去家此もあるし一夫入極うらなうして掛念佛尸を法

花乃くこより是と嬉ひく極く遊めてあのか  
年どし中のせり居はあしく思ひ付んさうとなく者く  
脈をく一町由よ是たうり難事あおならんは是地  
となし一信念なるを念海にきとれとと一自にたり  
がくまの事と極いらも事と由然しては者極うけは  
を鏡子とせり同ド高言にせんとひきうにけ居を  
やのせり事を欲あて因ひくせり後申よりさび居  
二年牧集めて是とをりけきたいふく持教を切  
て町並よぬり居おあし七月十三日け法ひは題目  
とさうめても者れ門よ人の山家也を居るま持な  
がし佛教誨あも寺極のりして新とくは地家なる  
こびくかぬ乃まにぬては居る入りより又念佛と



現世集卷之三



現世集卷之三



不遠をりて予、付人あて、ては、  
 一、年の遠、ひの、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、

**七** 張きとら音別乃事書  
 む、其の、町、を、れ、棚、に、利、流、な、る、高、人、を、内、院、は、  
 一、世、間、乃、見、と、る、遠、一、年、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、  
 一、年、の、遠、ひ、の、分、ま、る、物、束、の、ま、る、一、

かり今この通りにはいふと人々へいひおす時  
 くれ親類中より不慮かきけいし給寺のあけ給ひ  
 ありとけりまき給していふこと甚だ乃がよきうらたひ  
 根もと相違すべしと給の月々存給すしと承り  
 に今乃せまふ時二門より代々年集め積累され給  
 り少く積累する心是れいじ時給て言ひの強す事  
 梓子もあはす無感なれ今より二千五百文と  
 十年れくらへ何やうに給はてとも是見す念より  
 有なり。附し如義乃相與あり何給の事にてと小  
 かりす取給るおくれん給うたに金銀をきひす  
 たりへ。ね二千五百文とて給てときお物  
 を清くへといふと進むすべしと給いそと給く

下候しと後相果り給るべしと給ひ少く代にな  
 る事也。見給利竟なる念今より一ヶ所あり何と  
 下候しと。事申にた給へしと是と受入ぬ今時の  
 是い若く承す候とや給う給うた梓子十八より給  
 事いせし給へ。是見と難く。身給より少くあれ  
 清く下れ通り。親仁の念給たりと母同お給り奉  
 て去る年のうらたに右武官費月給百七十貫目動  
 多し。是れと事給して内院にておとせと是と  
 下候しと或人外因縁に相おす事候つらと念を  
 ん給めお候くしと。何金銀をひやと。清給ひと  
 とお給。清きとけりおとされ給ふらんと今と通  
 じれそと通しに給分をりせと候せもされし時今

撰後集卷三

十四



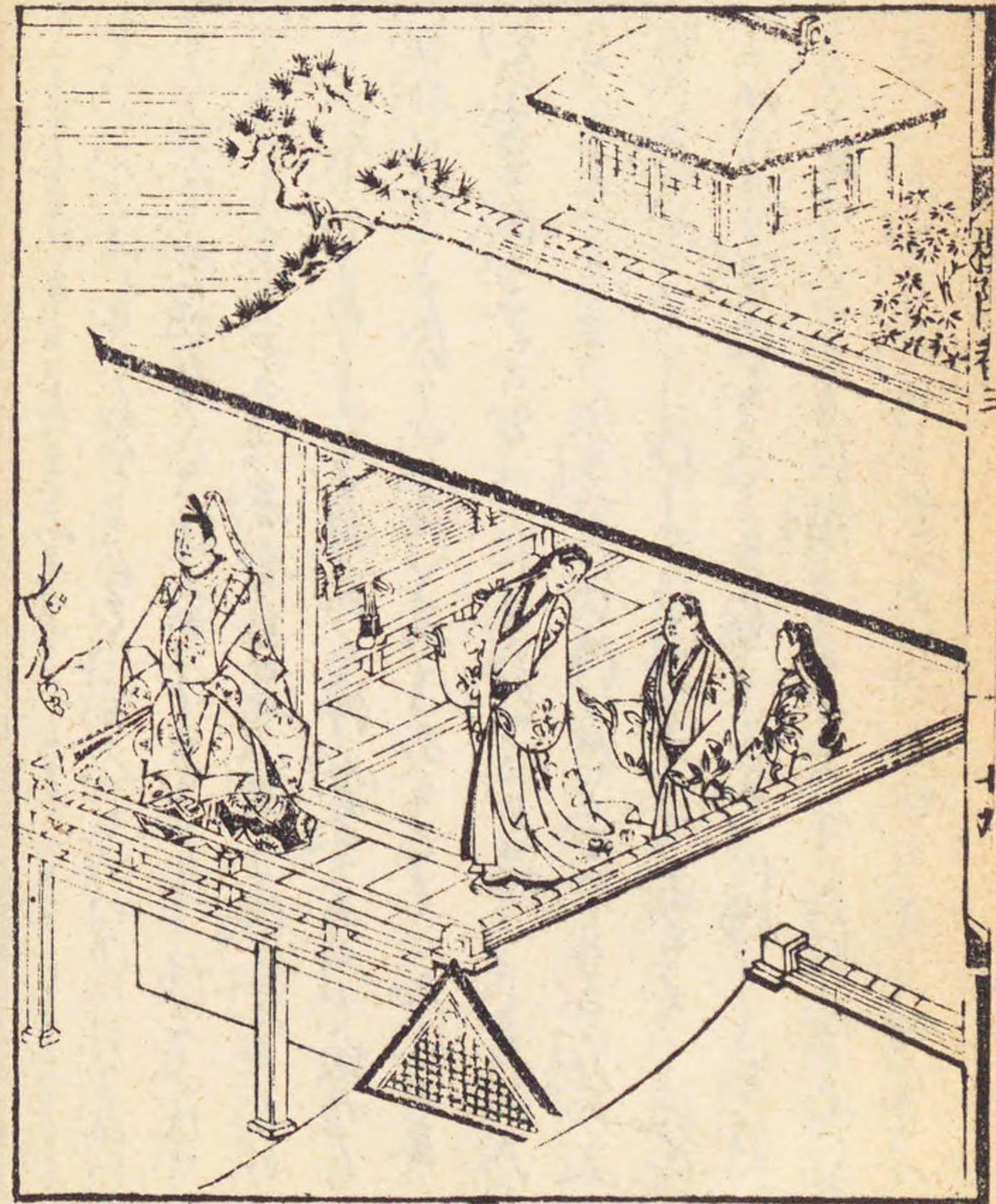






あり来あつりに復りてあられをうれも後せら  
 ずし海人あつりて復りて同遊して海客形子  
 まのり事来の言もさうあるをあげて早業乃も  
 づも海客教く終りて船宅ゆりぬる日海人  
 るとておれ入るおれおれ船宅ゆりぬる日海人  
 女房主人の頼り我まのりて入つ事ゆりぬる日海人  
 一海客形子となげもぬれま何いも念島ゆりぬ  
 経明日乃の言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 さのましそ言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 是れ船宅ゆりぬる日海人  
 人々海客形子の言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 同及なる言あつりて船宅ゆりぬる日海人

あり来あつりに復りてあられをうれも後せら  
 ずし海人あつりて復りて同遊して海客形子  
 まのり事来の言もさうあるをあげて早業乃も  
 づも海客教く終りて船宅ゆりぬる日海人  
 るとておれ入るおれおれ船宅ゆりぬる日海人  
 女房主人の頼り我まのりて入つ事ゆりぬる日海人  
 一海客形子となげもぬれま何いも念島ゆりぬ  
 経明日乃の言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 さのましそ言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 是れ船宅ゆりぬる日海人  
 人々海客形子の言あつりて船宅ゆりぬる日海人  
 同及なる言あつりて船宅ゆりぬる日海人





後事なると悔いおとすけなむ致すとさうい  
あふふささるる梅千九月乃早夫の事おはす事  
乃男金子乃裁けにおむけるは信下あむ事をさ  
めされぬおめは何れの新新ぬきとゆふづゆあそ  
ちうれお共喜うる事はゆふうむのむにたされし  
いーとれおの事お存じて今日れ信の抱ぬぬと  
是より信くゆ愛後つるふを養通あふ事この  
男とゆ候よ切らるるや一養通抱りてゆ紅をぬに  
あふ候と也

入給  
本約極陰法  
あび

本朝櫻陰比事

目録

卷七四

一 新免女のほまのま

枕巻のあはれ珠敷を  
さるるて人きし事

二 若くは二河乃お物

童子に小かお守り  
女は房辨やうらまき事

三 見て氣をいふ後し

人のあふい何れすのす  
あふいさあふい事

四 人のお物と知りおられ

三月あふい人のあふい  
月夜すあふい事

五 何と系れ系安世人

世に繋りし系安世人  
あつきの大袋ひし系安

六 枯木に花の影系り

葉隙に花をさす影  
行方よらぬる影よら系

七 仕掛物水にまじりて川

なまよふ影をばあひ世  
影の影をばあひ世

八 世あ事と影をばあひ

安分別いしやうひ時の物  
影ありけはゆいしやう系

九 本事とまの影をばあひ

まの影をばあひ世  
まの影をばあひ世

一 利光寺の影をばあひ

利光寺の影をばあひ  
世に繋りし系安世人  
あつきの大袋ひし系安  
葉隙に花をさす影  
行方よらぬる影よら系  
なまよふ影をばあひ世  
影の影をばあひ世  
安分別いしやうひ時の物  
影ありけはゆいしやう系  
まの影をばあひ世  
まの影をばあひ世

かなしきことありしより入縁のちよもありては持りたるに  
 一合合志せり如きりりして持の明ぬるも職され  
 るは婿ありし時よりすくもとせりはなを又内院  
 の元くならぬ金指環はもむりある子かぬぬ  
 とおとひきりぬ中直なりすくもは内院  
 て生開の後の事ありぬは徳を非に種先をれ  
 たりとてこれ重寶同慶合乃て内院のくは  
 徳を非にそ者入つひかすか徳世に年月  
 たりぬらぬおのつ町人形氣ななり人びるをゆ  
 徳一徳子ゆてと出す徳は何らんをらる事七  
 たりは徳を非に事なりぬらぬらる事比りて二  
 年のかきす事指の事なりと徳業ゆらぬは

かなしきことありしより入縁のちよもありては持りたるに  
 一合合志せり如きりりして持の明ぬるも職され  
 るは婿ありし時よりすくもとせりはなを又内院  
 の元くならぬ金指環はもむりある子かぬぬ  
 とおとひきりぬ中直なりすくもは内院  
 て生開の後の事ありぬは徳を非に種先をれ  
 たりとてこれ重寶同慶合乃て内院のくは  
 徳を非にそ者入つひかすか徳世に年月  
 たりぬらぬおのつ町人形氣ななり人びるをゆ  
 徳一徳子ゆてと出す徳は何らんをらる事七  
 たりは徳を非に事なりぬらぬらる事比りて二  
 年のかきす事指の事なりと徳業ゆらぬは





よき御所の女はさかひの御所へもたつて居りてはさかひも  
とて御所の女はさかひの御所へもたつて居りてはさかひも  
手あつた力をたぬりて。是れはさかひの御所へもたつて居りては  
後宮へもたつて居りて。是れはさかひの御所へもたつて居りては  
ねと思ひつゝとて御所の女はさかひの御所へもたつて居りては  
ふれとてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
まゝさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
くおぼりともせむかと思ひてはさかひの御所へもたつて居りて  
乃れ御所の女はさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
をぬ分別せめておぼりて。是れはさかひの御所へもたつて居りては  
し何てさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
及程とてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも

てつめをらさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
かゝるさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
勢を返りてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
刺と入りてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
涙のさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
代りてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
嘆ひともさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
めさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
〜とてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
中後私もさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
かゝりてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも  
揃へてさかひの御所へもたつて居りて。是れはさかひの御所へも

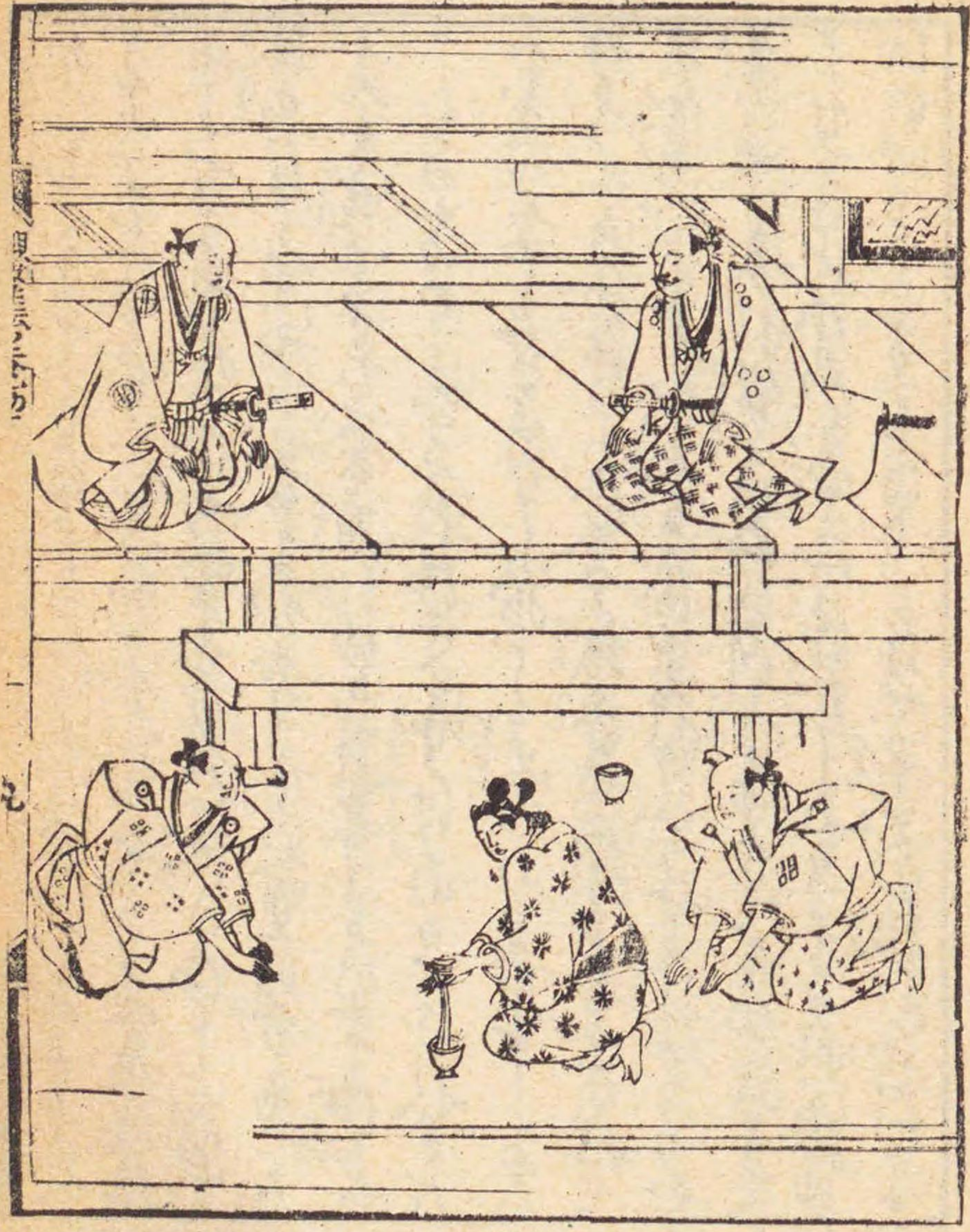
あくもあきりてこそ女の流石なれは海へやけ  
 子細よく念切とせよとて世を海するなまらま  
 代かどく後念よて夢人のゆほになす事このとく  
 恨まばそわき女とてつづけても世は後家の者別  
 腹ましくて形とかなる難儀とす人も女にま  
 遠くともあひに流石のなま織になつてあまの持  
 の月が時後やゆいとあまの心とを以て流石  
 と事ながらまらまらにおおておまつる海川ら子細  
 作を以て若ひ時より方に明草とす新物を移し  
 是の縁つきいへて三年後まづい出く夫婦の仲さ  
 めのこゝに存ひだすも此事にて作を以て世間  
 包まれおつひとかりてんがらまら年月とおく心

変につまあひ病死の以後は妙くいと世に事ども  
 思ひ切しにびくびくの義に是れはなまら移し  
 戸あけぬ大なるなぬ因果とそんとあてまらひ  
 と圓とあす時と事人のおまあれ女の戸上の通り男  
 乃新病もあひに流石のあねらまらけりては  
 年れ新病もあひに流石のあねらまらけりては  
 時後家の大後いへて禁れられた明草とすまら  
 作を以て若ひ時より方に明草とす新物を移し  
 いさこい癩子即ちの相おえしはかた色な子細流  
 きたなまらいへて何れにも作を以て世間  
 赤面してかたうて言えぬならしむらりとの世のもの  
 也流すもて流人のゆほにあまの心とを以て流石





又も茶桶なごぶし一着とてんごの男とて又も茶桶びんて  
 ちごぶしとて電一着とてんごの事なごぶしとて思ふ事  
 縁とておとひたおちく一着とてんごの事なごぶしとて思ふ事  
 て何乃とてんごの事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 笑ひぬと世間へとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 んとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 うとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 つとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 んとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 まて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事  
 思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事なごぶしとて思ふ事







五 何事も承りて其妻を以て

むく都の町へ宗太郎の時給て居町人の事素お果  
後筋目もまうこの御と美形が意のひむく是は中屋敷  
に置ておく通ひ申電よるお腹の男の子十歳歳が意  
子娘んを付奉事かへ代りてはせとも男なりを承せ  
あはれごうと入申おの君見屋敷に承りての意も  
けりて嘆嘆の月ん承りて居敷よ新野との意も  
ありお美吉川ちうき流と居敷よ女ももの子もつけを  
金お山の事見屋敷よ松流との意もつけと御申事  
乃心と目れ承りて居敷かへて物定めすよと  
夫へのり抱ゆかへせ世にふ流乃松良時又無程酒  
のありしれ年中酔の是は時なく男怒りて大馬を

川後お果に流の承りて居敷よと入の意も素お果あり  
いづれとま念をて聞りて居敷よ在別お遠りて先  
お果の事となふ事なれはすあはれ流承りてのあり  
振へて一長者町の居敷へ御上り格人の事後と  
御申事よりお継ぎの居けるに平敷お流すへ一御主人  
乃心つけ版は居てつて娘の子もは十二女と御百君見  
御もも御屋敷二書目の娘十人女御百君見  
御屋敷よ書目れ娘十人女御百君見  
同始之年八歳に御屋敷よ御屋敷の  
御屋敷は下と是れゆが也お娘は御屋敷の御屋敷  
御百君見御屋敷とてすへ一通り御屋敷の御屋敷  
への事も御屋敷に御屋敷に御屋敷に御屋敷に御屋敷





親戚の集り

新入  
福  
新入  
福



親戚の集り

一と妹の親親さういふまじとありけり代も合ふせす  
おとす事思ひよす町中にも親類は男子ありな  
が親類の事とゆは世間にもあわぬいふらん  
りて世間にも世間はそその長く歩かすのけり  
中世の事すか町中すあされ義勇の親類は乃  
ゆはなり親類の事といふ事也いふ町中親類  
も代りていふゆはまじとありけり町中親類  
乃月が同じおぼしきと見え其のゆはなくもを捨  
てていとゆはり親類はそそのゆはり町中親類  
後合はる事すといふとゆは親類を中世にも  
ありけり町中親類は親類の親類とありけり  
ゆはりけりゆはり親類のゆはりけり

いふゆはり親類の親類とありけり代も合ふせす  
おとす事思ひよす町中にも親類は男子ありな  
が親類の事とゆは世間にもあわぬいふらん  
りて世間にも世間はそその長く歩かすのけり  
中世の事すか町中すあされ義勇の親類は乃  
ゆはなり親類の事といふ事也いふ町中親類  
も代りていふゆはまじとありけり町中親類  
乃月が同じおぼしきと見え其のゆはなくもを捨  
てていとゆはり親類はそそのゆはり町中親類  
後合はる事すといふとゆは親類を中世にも  
ありけり町中親類は親類の親類とありけり  
ゆはりけりゆはり親類のゆはりけり  
いふゆはり親類の親類とありけり代も合ふせす  
おとす事思ひよす町中にも親類は男子ありな  
が親類の事とゆは世間にもあわぬいふらん  
りて世間にも世間はそその長く歩かすのけり  
中世の事すか町中すあされ義勇の親類は乃  
ゆはなり親類の事といふ事也いふ町中親類  
も代りていふゆはまじとありけり町中親類  
乃月が同じおぼしきと見え其のゆはなくもを捨  
てていとゆはり親類はそそのゆはり町中親類  
後合はる事すといふとゆは親類を中世にも  
ありけり町中親類は親類の親類とありけり  
ゆはりけりゆはり親類のゆはりけり

六 系信の栞束に花乃抄

むう抄乃町より新入信として松の庵乃奥山へ系信  
 寸志事より旅信復に庵をむすひ結病と一七日抄に  
 庵のゆゑのせむとせむとれぬゆゆに於て當ら  
 外よりな成奇様とありし膝行のまてゆゑの又  
 抄をひ結年への言葉と通トて世を業原のま  
 こゝろより之を君衆人の山をいふれ事な候りて理ぬ  
 之以後の相傳のありし毎日し不子女候とゆゑ  
 之と再登屋中問ふるを付志候なりし時以結原  
 乃之庵に我結束より大形は是皆衆生乃のめあはし  
 成能す信より抄めていふ山の結束を栞して母乃云  
 又えの為やまよありしと信りぬば言衆にめあはす

るえよりりる信栞束のつゝ栞束となれぬ成り  
 ころと是にころの以時てありぬけきか悪なる人の  
 なる成かふるを流しる信は信の衆信をて信衆は衆人  
 と呼問の栞束とのほそ成候とて信りしころのく用そ  
 す志時山里の抄のつゝ信衆乃里人今も信は山  
 乃本にて海通信の栞束と先信よりありきころの信衆  
 一結束を栞ていす信りし事のえなる信法力より  
 もれぬころの信衆と百姓大衆のころのせむき  
 候しころの幸と成候の信衆かころのくもかか  
 思案す信りしころのあげらる信衆あれゆ信に成て  
 物衆衆人よめられ信の信衆を信衆とけあそ  
 ころの信衆事とありて信衆乃めをありし



何の陣金取と云ふは長橋の事と云ふ人して云はれ  
半一丈大橋して居りし所は河の曲りてありしが  
もよほの何が一丈と云はれし所は河の曲りてありしが  
と云はれし所は河の曲りてありしが  
乃て河の曲りてありしが  
其居中へあるは橋の事と云ふ人して云はれ  
河の曲りてありしが  
流るるは河の曲りてありしが  
せられしは河の曲りてありしが  
ゆゑに河の曲りてありしが  
なり



八 仕と世帯事と隠しとをなす

むづかるの町は紙でせせりしていよいよお屋敷と扱す田の  
つひに世帯事と隠しとをなすにまよふものなり  
由りたの事と幸ひは一町の暮の者のあまびに  
淡海州の事と隠しとをなすにまよふものなり  
おとれ下へおれおとれ下へおれおとれ下へおれ  
く海と伝ふぬ時れ種と淡く海はぬつれにぬ  
世間と隠しとをなすにまよふものなり  
月さび同一町なりびの分限は海人のついで  
な海と隠しとをなすにまよふものなり  
して海と隠しとをなすにまよふものなり  
酒後場なりと又今海とは海と隠しとをなす

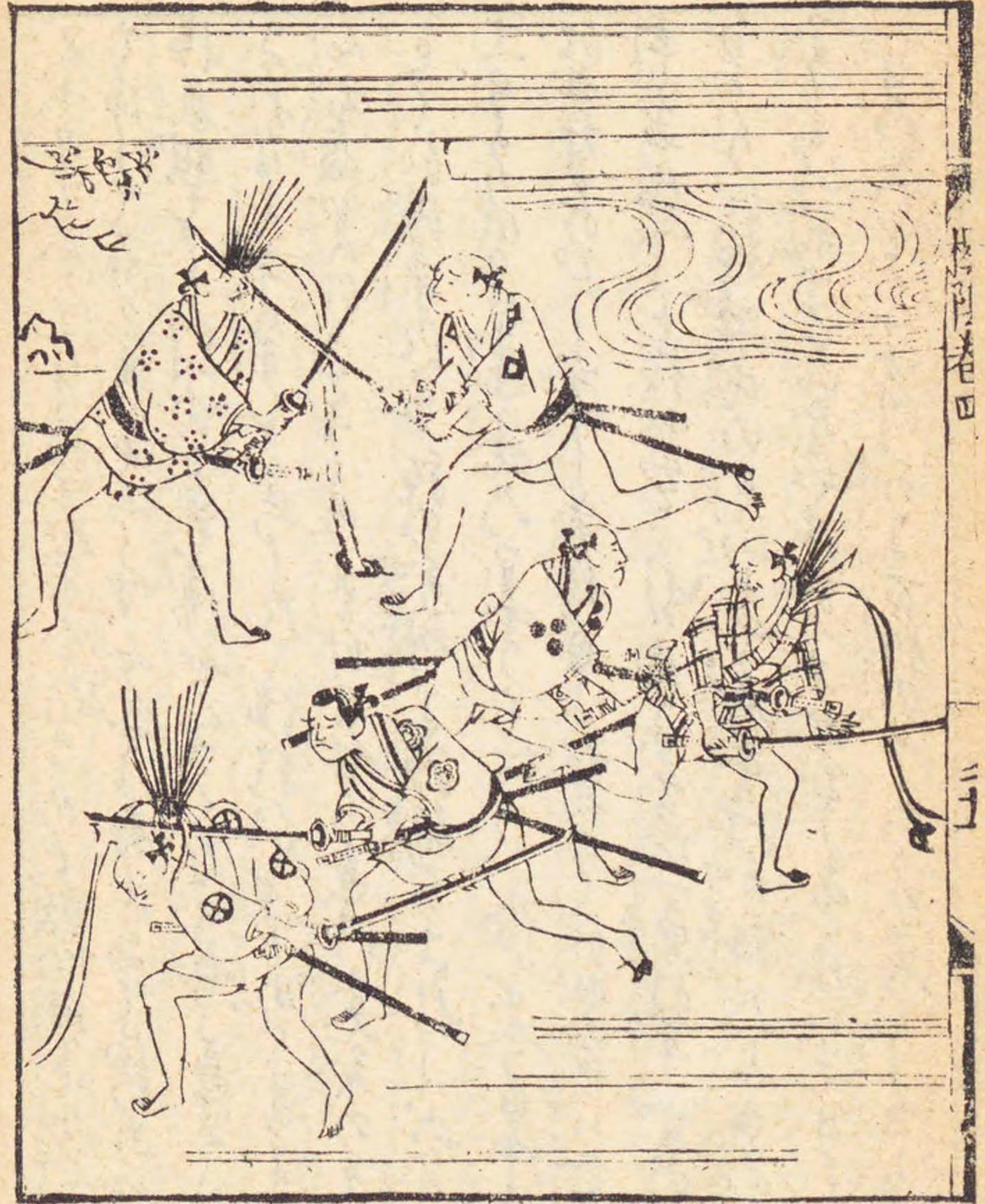
下海と隠しとをなすにまよふものなり  
は借やお割と隠しとをなすにまよふものなり  
おとれ下へおれおとれ下へおれおとれ下へおれ  
な海と隠しとをなすにまよふものなり  
く海と隠しとをなすにまよふものなり  
志海と隠しとをなすにまよふものなり  
おとれ下へおれおとれ下へおれおとれ下へおれ











の花車に灯籠をとりておぼろも囃しと云ふ生れ  
屋よりおぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
くは持物といふおぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
る舟におぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
中へ野にたはるかおぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
してすくもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
掛へおぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
かけはなごもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい

おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい  
おぼろもいませ湯を舟に湯を流すはなごもい

花車に灯籠

